

2015-17-3 犬、脾臓、骨髓

鶏病理 戸澤 世利子

提出機関 Veterinary School. Universidade Federal de Minas Gerais (ブラジル)

症例 犬 (ペキニーズ)、10歳、避妊雌

病歴

- 無気力と重度の貧血のため受診。
- 溶血性貧血の診断歴あり。
- 眼科検査で網膜剥離が判明。
- 入院し、3回の輸血を受けたが、入院2カ月半後に死亡。

肉眼所見

- ボディコンディションは良好。
- 左眼球の角膜は広範囲で不透明に白濁。
- 頸部、膝窩、腸間膜リンパ節は腫大し、黄褐色を呈し、脆弱。
- 脾臓は顕著に腫大。被膜は線維化により肥厚、複数の白斑 (厚み1~3mm) を伴う。割面は膨隆し、硬く (多肉質)、赤色調、多数の小白斑病巣を伴う。
- 肝臓は広範囲に暗赤色を呈し、多発性の白斑 (直径1mm) を伴う。
- 肺は中等度にうっ血、水腫。
- 左心室の心外膜と腹膜に点状出血。
- 左右腎臓に境界明瞭な暗赤色の領域 (直径約2.0cm) (急性梗塞を疑う)。

検査結果

• 血液生化学検査結果

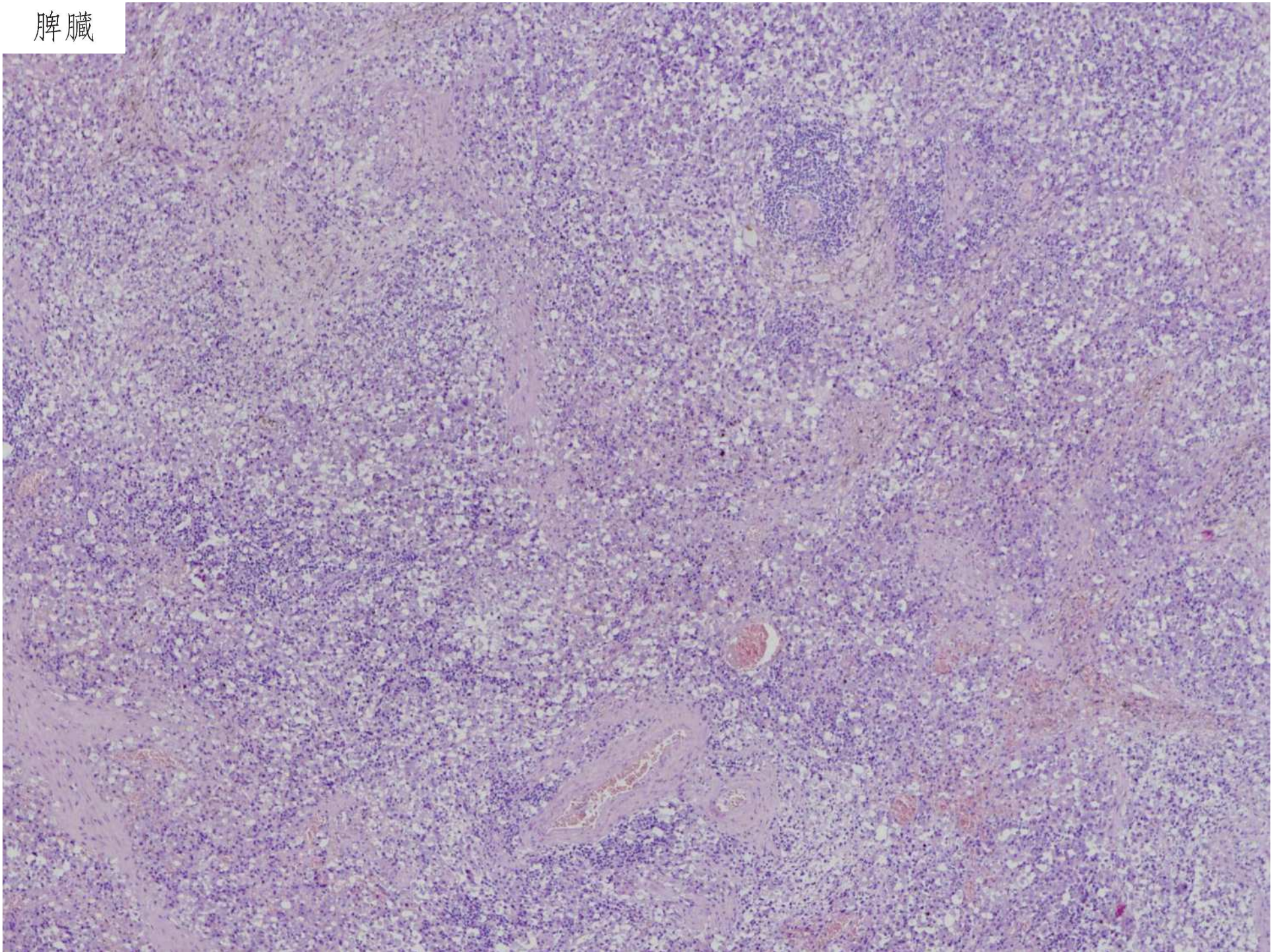
項目	単位	1回目	2回目	3回目	参考範囲
赤血球数	百万/mm ³	2.16↓	2.35↓	1.57↓	5.5-8.5
HCT	%	15↓	16↓	11↓	37-55
VCM(MCV)	fl	69.44	68.09	70.06	60-77
CHCM(MCHC)	%	28.0↓	30.00↓	30↓	31-36
総白血球数	mm ³	2627↓	2465↓	2347↓	6000-17000
血小板数	mm ³	38000↓	16000↓	44000↓	175000-500000
TP	g/dL	6.9	6.5	6.8	5.4-7.5

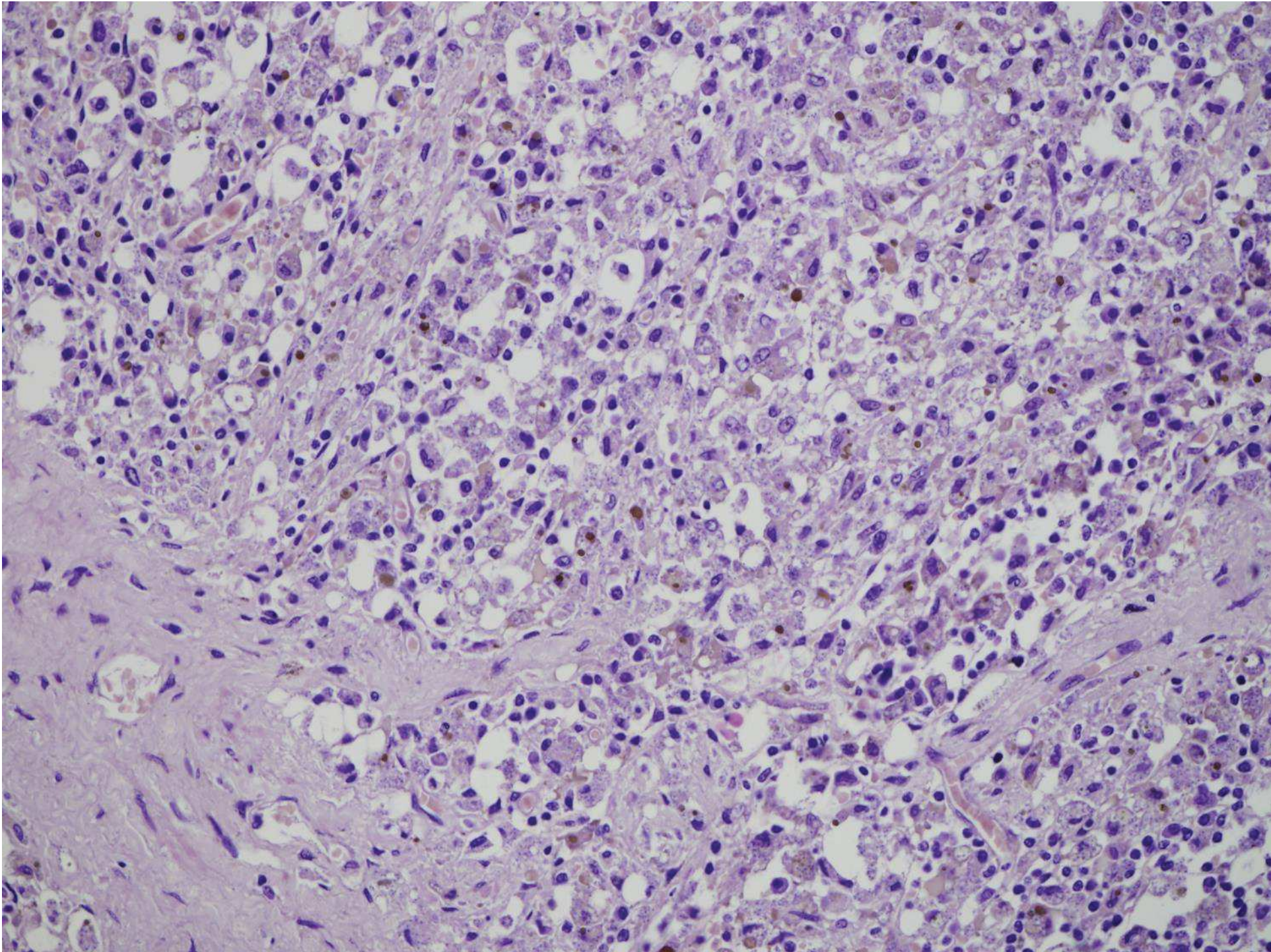
→著しい貧血（正球性、やや低色素）、白血球減少、血小板減少

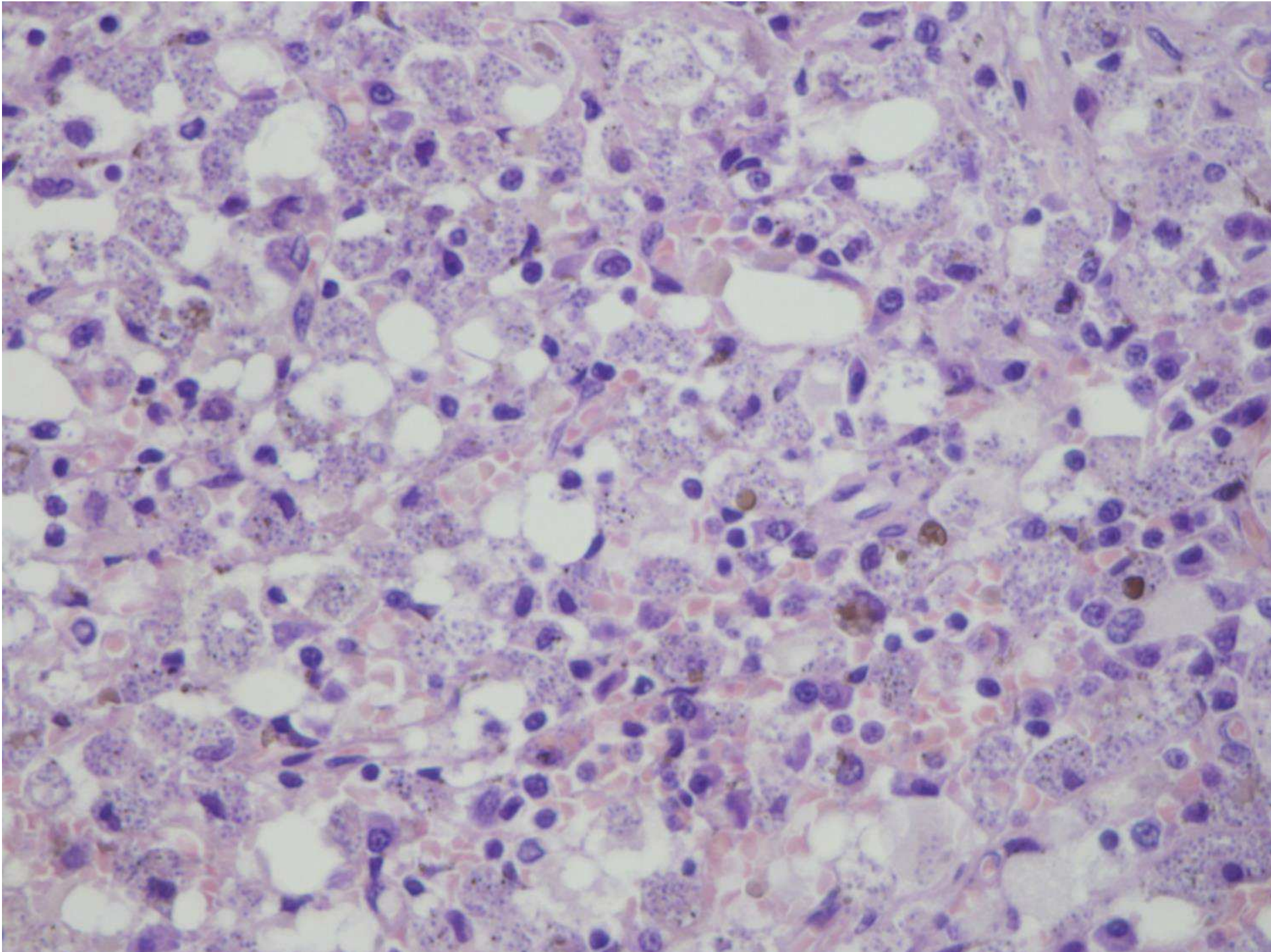
• *Leishmania*抗体検査結果

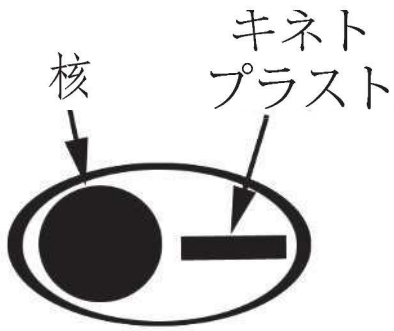
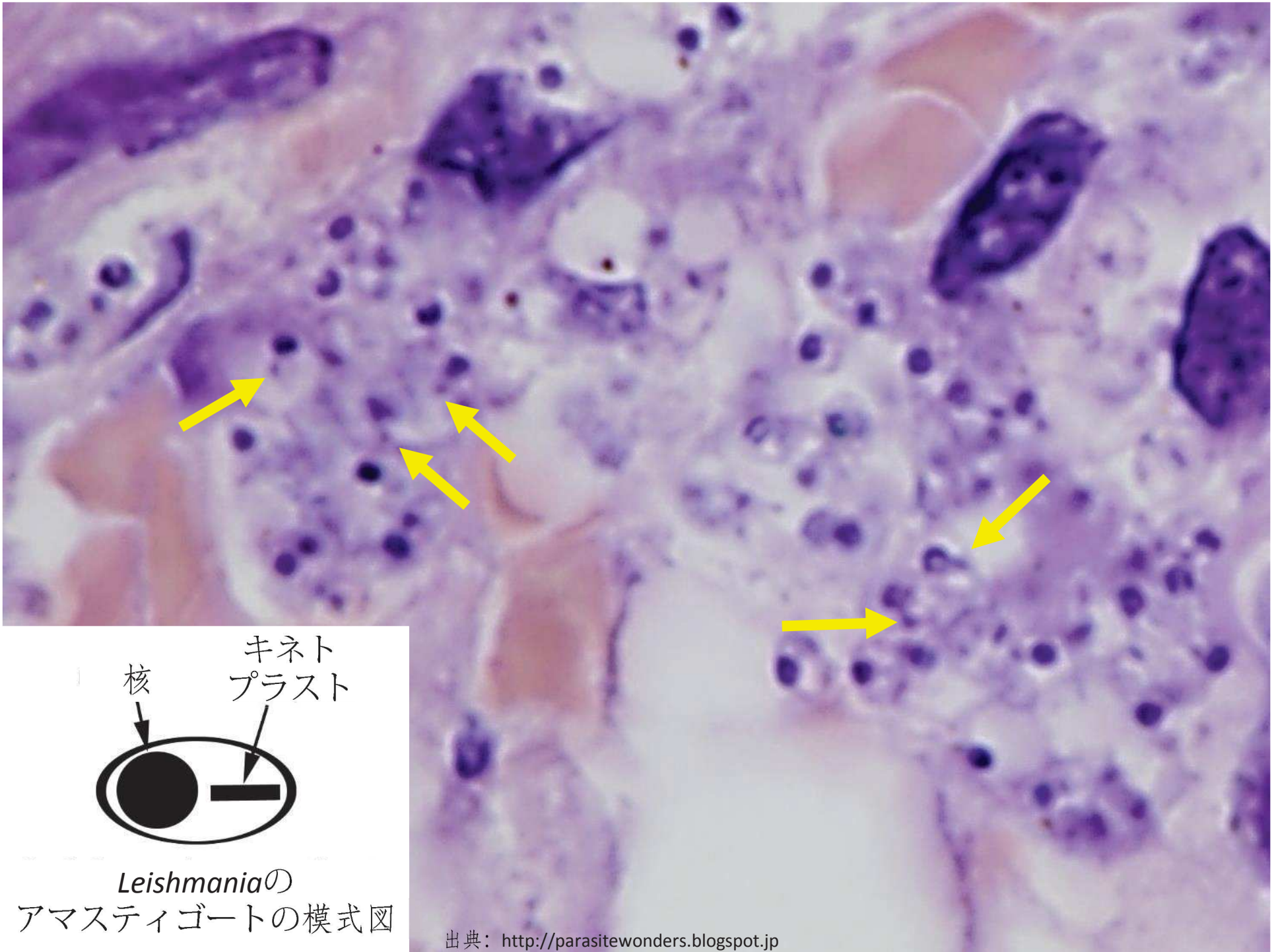
	1回目	2回目
間接蛍光抗体法	陽性	陽性
ELISA	陰性	陽性

脾臟





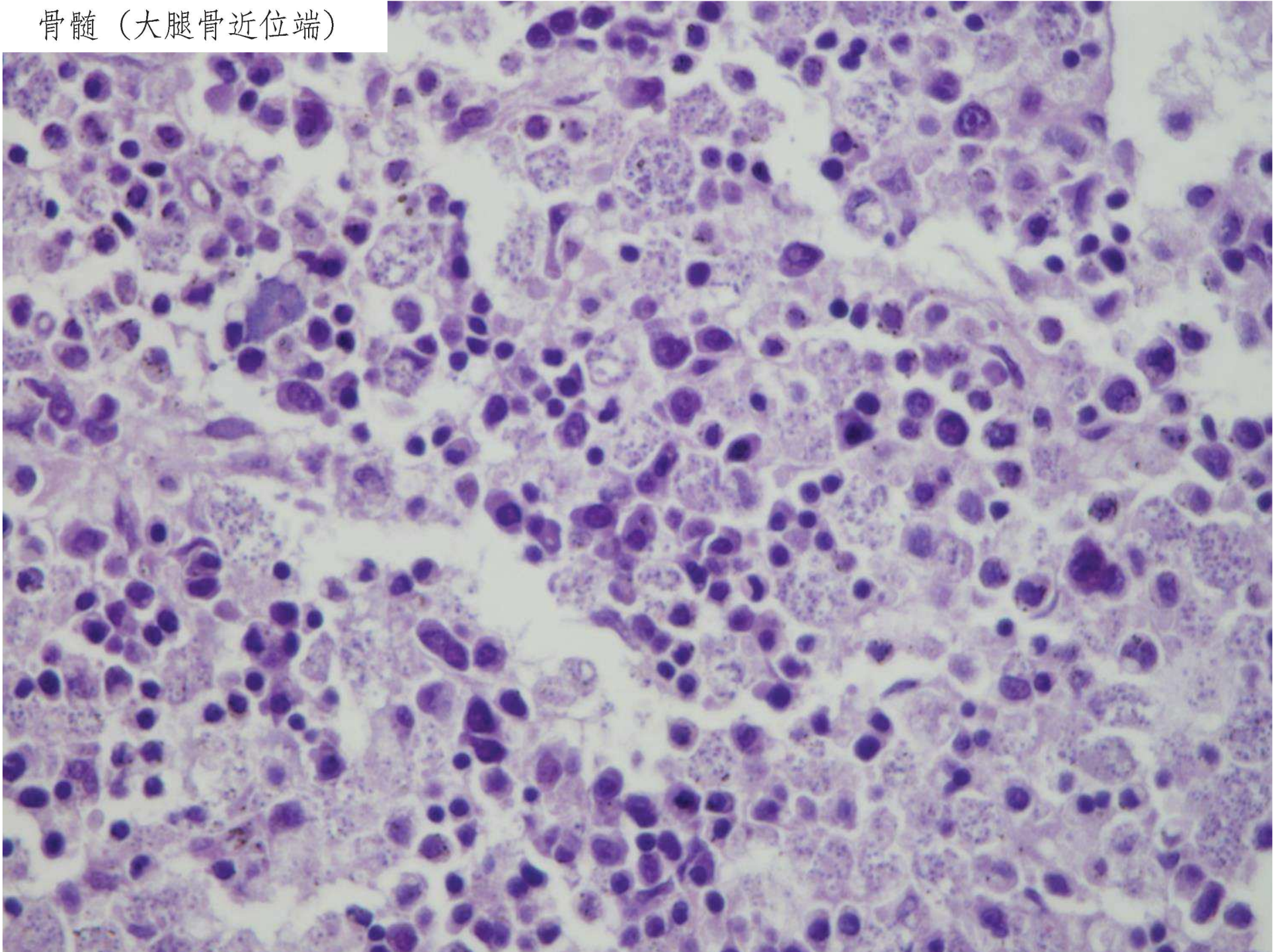




*Leishmania*の
アマスティゴートの模式図

出典: <http://parasitewonders.blogspot.jp>

骨髓（大腿骨近位端）



提出者の診断

- 脾臓: *Leishmania* spp.と一致する、無数の組織球内アマスティゴートを伴う、重度、びまん性、組織球性および形質細胞性脾炎および脾周囲炎
- 骨髄: *Leishmania* spp.と一致する、無数の組織球内アマスティゴートを伴う、重度、びまん性、組織球性およびリンパ形質細胞性骨髄炎
- Spleen: Splenitis and perisplenitis, histiocytic and plasmacytic, diffuse, severe, with myriad of intrahistiocytic amastigotes, etiology consistent with *Leishmania* spp.
- Bone marrow: Myelitis, histiocytic and lymphoplasmacytic, diffuse, severe, with myriad of intrahistiocytic amastigotes, etiology consistent with *Leishmania* spp.

JPCの診断

- 脾臓、赤脾髄: 非常に多数の細胞内アマスティゴートを伴う、著明な、びまん性、組織球性および形質細胞性脾炎
- 脾臓: 赤血球貪食およびヘモジデリン沈着を伴う網内系過形成
- 脾臓: 髄外造血
- 骨髄: 非常に多数の細胞内アマスティゴートを伴う、著明な、びまん性、組織球性および形質細胞性骨髄炎
- Spleen, red pulp: Splenitis, histiocytic and plasmacytic, diffuse, marked with numerous intracellular amastigotes.
- Spleen: Reticuloendothelial hyperplasia with erythrophagocytosis and hemo-siderosis.
- Spleen: Extramedullary hematopoiesis
- Bone marrow: Myelitis, histiocytic and plasmacytic, diffuse, marked with numerous intracellular amastigotes.

提出者のコメント

- 犬リーシュマニア症は人獣共通感染症で、主に南ヨーロッパ、アフリカ、南・中央アメリカで風土病。
- 臨床症状と重症度は多様。
- 非再生性貧血（正球性または正色素性）と白血球減少が特徴。
→*Leishmania sp.*の高度な骨髄寄生による血液産生減退が原因。

症状：皮膚病変、リンパ節腫大、脾腫、眼病変、鼻出血、食欲不振または増加、悪液質、筋萎縮、運動不耐性、多飲/多尿、爪甲鉤弯症、下痢、嘔吐、跛行

病変：糸球体腎炎・間質性腎炎、炎症性小結節性病変、粘膜の潰瘍



↑眼瞼炎と脱毛（左）、鼻粘膜の潰瘍（右）

出典：Parasites & vectors, 2011,4:86

会議のコメント

- マクロファージによる*Leishmania sp.*の殺傷は能率的ではなく、さまざまな免疫応答が起こるため、多くの組織が損傷される。
（例：免疫複合体の沈着→糸球体腎炎）
- 高グロブリンと低アルブミンを伴う低タンパク血症が一般的にみられる。
本症例でも高グロブリンと低アルブミン血症がおそらく存在しただろう。

Leishmania sp.のライフサイクル

